

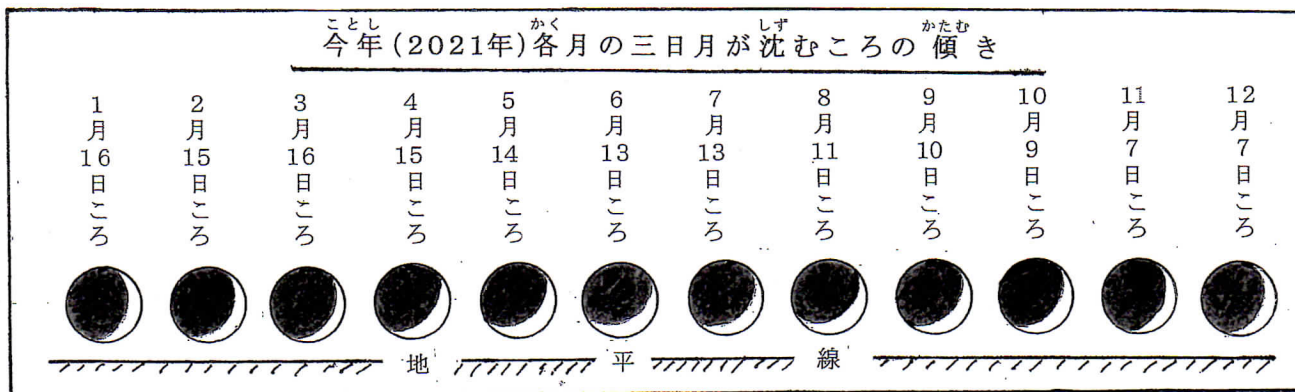
☆天文の基礎知識 ——— 三日月が沈む時の傾きの変化 ———

小・中学生のみなさんは、日が沈んで西の空がきれいなあかね色に染まっている時、地平線の少し上に明るく輝いている三日月を見て感動したことがあると思います。

三日月とは、月が太陽からの光が当たっていない方だけを地球に向けて完全に欠けた新月の日から数えてほしい3日目ごろに見える月のことで、特別はつきりした決まりはなく、右下にいる太陽から離れる角度も約20°くらいの場合から約30°のくらいまで、かなりはばがあります。

その三日月が時間とともにだんだん地平線に近づいて行く時の地平線に対する傾き方が毎年、季節とともに変化します。これは太陽が1年間の通り道である黄道のどこにいるかや、それにつれて、月が丸い地平線のどこに沈むかなどによります。

また、三日月は、月の満ち欠けに基づいて作られた旧暦(正しくは太陰太陽暦という)では毎月の3日ごろに見えますが、今、みなさんが普通に使っている暦(太陽暦という)ではまちまちです。下の図は今年(2021年)1年間の三日月が地平線に近づいた時のおおよその傾き具合を表したものです。もし、そのころ晴れていて三日月が現れていたなら確かめてみてください。



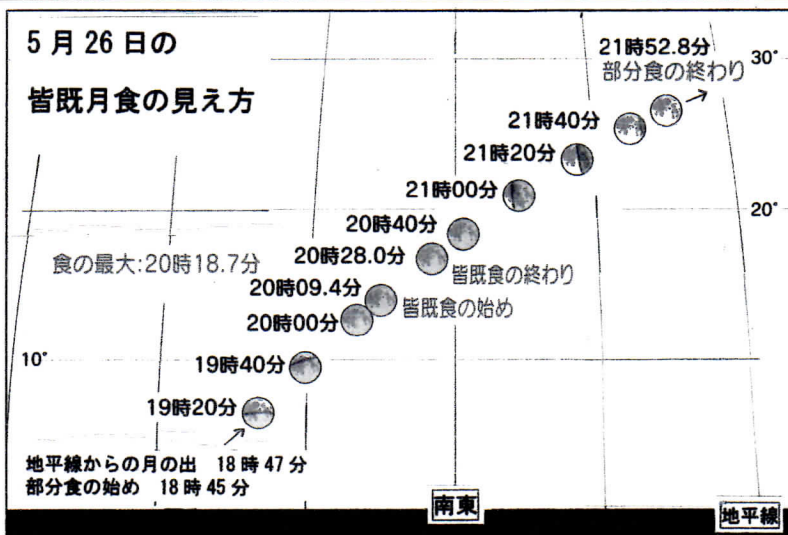
今年一番の天体ショー

5月26日(水) スーパームーンの
皆既月食(かいきげっしょく)

2021年5月26日の夕方、満月が全部地球の影に入る「皆既月食」があります。平日ですが、観察するにはちょうど良い時間帯です。日の入りが19時ごろなので、空がまだ明るい時に、南東の山から月が昇ってきますが、すでに下側がだいぶ欠けて見えるでしょう。部分食が進み、空が暗くなったころには、月全体が赤銅色にそまりなんとも言えない美しさになります。

今年最も地球に近い満月(スーパームーンといいます)の時に起きる天体ショーをぜひ家族で楽しんでください。

日の入り	18時59分
皆既食の始め	20時09分
食の最大	20時19分
皆既食の終り	20時28分
部分食の終り	21時53分



2021年 満月の距離と大きさのちがい (イメージ)



2021年 最も近い満月
5月26日
距離 35,700 km



2021年 最も遠い満月
12月19日
距離 40,600 km

11月19日には「部分月食」があります。